レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026年 4月 1日

広島県生コン工業組合 殿

広島トクヤマ生コン株式会社　福山工場
福山市柳津町三丁目2番6号
TEL：084-934-0024
FAX：084-934-0047
配合計画者名　原田 禎浩

工事名称	工組HP
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日、9月21日～12月10日期間、左記以外は備考欄に示す。(標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－kg/m³
	水の区分	使用材料欄に記載	コンクリートの温度	－℃
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	水セメント比の目標値の上限	60％
	塩化物含有量	0.30kg/m³ 以下	単位水量の目標値の上限	－kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－kg/m³
	空気量	－％	流動化後のスランプ増大量	－cm

使用材料

セメント	生産者名	日鉄高炉セメント株式会社	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％	－
混和材②		－		－				－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	福山市瀬戸町大字地頭分	A	モルタルバー法	5mm以下	2.75	－	2.61	3.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見市上青江	A	モルタルバー法	5mm以下	3.04	－	2.67	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石2010	福山市瀬戸町大字地頭分	A	モルタルバー法	20mm～10mm	58	－	2.65	0.5±0.5
	②	砕石1505	福山市瀬戸町大字地頭分	A	モルタルバー法	15mm～5mm	－	－	2.65	0.5±0.5
	③	砕石4020	福山市瀬戸町大字地頭分	A	モルタルバー法	40mm～20mm	61	－	2.65	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイテイ1000S	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq ％	0.5
混和剤②		－		－		－
混和剤③		－		－		－

細骨材の塩化物量	－％	水の区分	上澄水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－％
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	安定化スラッジ水の使用の 有・(無)

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
279	－	－	159	423	433	－	403	201	403	－	2.34	－	－

水セメント比	57％	水結合材比	－％	細骨材率	46.0％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②　50.0:50.0 粗骨材①:②:③　40.0:20.0:40.0

修正標準配合として、次に示す期間、混和剤の単位量のみ変更
夏期6月11日～9月20日　20％増、冬期12月11日～3月10日　20％減

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－kg/m³
	水の区分	使用材料欄に記載	コンクリートの温度	－℃
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	水セメント比の目標値の上限	60 %
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位水量の目標値の上限	－kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－kg/m³
	空気量	－%	流動化後のスランプ増大量	－cm

(1) 変動係数 (v)　　当工場の実績により　v = 10　%

(2) 配合強度 (m)

$$m_1 = \frac{1.00 \cdot S_L}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 30.0 \ N/mm^2$$

よって　m = 30.0　N/mm²

(3) 水セメント比 (W/C)　m = -17.8 + 27.7 × C/W

W/C = 27.7 ÷ (30.0 + 17.8) × 100 = 57 % ≦【60% (上限値)】

∴W/C = 57　%

(4) 単位水量 (W)　　当工場の実績により　W = 159　kg/m³

(5) 単位セメント量 (C)　　C = W ÷ (W/C) × 100 = 159 ÷ 57 × 100 = 279　kg/m³

Cv = C ÷ 密度 = 279 ÷ 3.02 = 92　L/m³

(6) 空気量 (A)　　A = 4.5 % × 1000 = 45　L/m³

(7) 単位粗骨材量 (G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.623 m³/m³　実積率 = 61.0 %

Gv = 0.623 × 1000 × 61.0 ÷ 100 = 380　L/m³

G1v = Gv × 40.0 % = 152　L/m³　　G1 = G1v×表乾密度 = 152 × 2.65 = 403　kg/m³

G2v = Gv × 20.0 % = 76　L/m³　　G2 = G2v×表乾密度 = 76 × 2.65 = 201　kg/m³

G3v = Gv × 40.0 % = 152　L/m³　　G3 = G3v×表乾密度 = 152 × 2.65 = 403　kg/m³

(8) 単位細骨材量 (S)　Sv = 1000 − (W+Cv+Gv+A) = 1000 − 676 = 324　L/m³

S1v = Sv × 50.0 % = 162　L/m³　　S1 = S1v×表乾密度 = 162 × 2.61 = 423　kg/m³

S2v = Sv × 50.0 % = 162　L/m³　　S2 = S2v×表乾密度 = 162 × 2.67 = 433　kg/m³

(9) 細骨材率 (s/a)　　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 46.0　%

(10) 単位混和剤量 (Ad)　　Ad = C × 添加率 = 279 × 0.84　% = 2.34　kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
279	－	－	159	423	433	－	403	201	403	－	2.34	－	－

水セメント比	57 %	細骨材率	46.0 %	骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:②	50.0:50.0
					粗骨材①:②:③	40.0:20.0:40.0

備考